

不屈の作曲家ベートーヴェン。そのイメージは、耳の病を乗り越えながらも音楽家であり続けたことが大きく関係しているだろう。本日演奏されるのはそんなベートーヴェンが書き上げたピアノ協奏曲。当時は作曲家自身がピアノのソリストを務めることが多く、実際ベートーヴェンもピアノ協奏曲の《第1番》から《第4番》は自分自身が初演のソリストを務めた。しかし《第5番「皇帝」》の頃にはもう耳が悪く、ソリストを務めることは叶わ^{かな}なかった。この《皇帝》が、ベートーヴェン最後のピアノ協奏曲となった。

B 2023, OCTOBER
[第1994回]



闘志を徹やすベートーヴェン
イラストレーション:©IKE

耳の病を乗り越えた不屈の天才
ルートヴィヒ・ファン・
ベートーヴェン
Ludwig van Beethoven (1770-1827)

カデンツァ

オーケストラとソロ楽器とによる「協奏曲」において、ソリストが自分のテクニックや個性を披露するような箇所。両端楽章に入れられることが多く、人気ソリストの超絶技巧を存分に楽しめる。モーツァルトやベートーヴェンの時代は、作曲家自身がソリストを務めることが多かったため、カデンツァ部分は即興で演奏されていたが、この《皇帝》でベートーヴェンは、しっかりと「カデンツァの楽譜」を用意した。自分ではない人が、初演を担当することになったからだろうか。